

4 緑の将来像と目標

(1) 緑の将来像

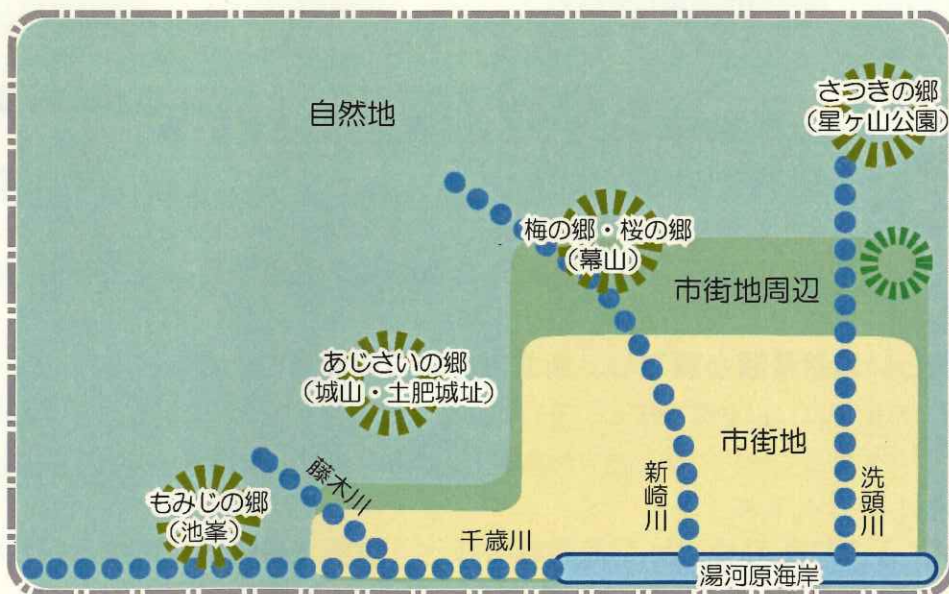
「潮風と深緑につつまれた四季彩のまち・湯河原」

ゆがわら 2001 プランでは町の将来像を「四季彩のまち・さがみの小京都 湯河原」としており、本町における四季折々の彩り豊かな自然と歴史性を表現している。

本町の自然の特色は、潮風を感じることができる海岸と標高約 1,000m の山々の深緑、そこから流れる河川といった起伏に富んだ地形であり、本町の美しい自然環境の前提となっている。

本計画の将来像は、これらの自然環境を踏まえながら、町民をやさしくうるおい、来訪者を暖かく迎える四季折々の花やみどりが整った将来の姿を目指し、「潮風と深緑につつまれた四季彩のまち・湯河原」とする。

(構造図)



(2) 緑の目標

緑の将来像である「潮風と深緑につつまれた四季彩のまち・湯河原」の実現に向けて、緑が有する多面的な機能（環境保全、レクリエーション、防災、景観形成）の発現に資するテーマ性のある施策展開を推進するとともに、地域が有する緑の特性を活かした特色ある施策展開を推進するため、次のような緑の目標を掲げる。

① テーマ別の緑の目標

ア 環境保全

●「うるおいのある暮らしの実現を通じて、環境問題に貢献する」●

近年、地球規模の環境問題が様々な場面で顕在化している。環境問題は人類共通の課題であり、全人類が一体となって取り組むべきものである。本町にあっては、町民に身近な生活環境におけるうるおいづくりを基本としながらも、そのことを通じて地球規模の環境問題に貢献していくこととする。

イ レクリエーション

●「魅力ある環境資源を活用し、多様なレクリエーションニーズに応える」●

本町は、山間部や丘陵部の緑、海や川の水辺といった自然環境に恵まれている。これらは、町民のみならず町外からの来訪者の余暇活動に対する多様なニーズに応えていくための環境資源として捉え、積極的に活用していく。

ウ 防 災

●「安心・安全な町民の暮らしを守る緑を保全・創出する」●

緑は災害から町民を守る大切な役割を有している。そのため、災害から町民の暮らしを守る緑を今後とも保全するとともに、町民の安心感や安全性を高める緑を新たに創出していく。

エ 景観形成

●「美しい自然景観と調和し、街並みを彩る緑を育む」●

本町の市街地は、山や海に接し、美しい自然景観に包み込まれている。市街地における街並みづくりにあたっては、こうした自然景観との調和に配慮しながら、街並みに美しさを与える緑を創造していく。

② 地域別の緑の目標

ア 自然地

●「将来にわたり、山間部の自然の連続性を大切にする」●

山間部は豊かな緑に覆われている。この緑があることにより市街地でも快適な生活が送れるのであり、連続するおだやかな緑を将来にわたり保全するとともに、町民や来訪者にうるおいを与える環境として活用する。

イ 市街地周辺

●「開発と調和しつつ、緑が連続する緑住環境を形成する」●

農業振興地域を中心とした市街地周辺においては、優良農地の維持確保や二次林などの保全を図ると共に、開発の際に一定量の緑の保全と創造を図るなどして、緑に覆われた緑住環境を形成するようにしていく。

ウ 市街地

緑に恵まれた自然地や市街地周辺との調和に配慮しながら、緑の豊かさを市街地でも享受できるようにするため次の目標を定める。

●「市街地から市街地周辺・自然地へと続く緑と水のネットワークを形成する」●

緑と水のネットワーク化により緑の少ない市街地においても自然地や市街地周辺の緑の恵みを享受しやすいように、新崎川、千歳川、藤木川沿いのうるおい空間を創造するとともに、国道135号沿道や海辺空間においても、様々な緑化によるうるおいネットワークの形成を進める。

●「市街地の身近なうるおい空間を形成する」●

市街地の中で緑や自然の恵みを享受できる場所として、社寺林などの樹木の保全や街区公園・小広場の整備など、身近な緑空間の充実に努める。

●「花を主体に要所要所で都市緑化を進める」●

町を美しく彩り、訪れる多くの人々を優しく迎えるために、駅前や主要な道路で花いっぱいの緑化、要所要所の緑化を進め、花と緑に彩られた美しい都市景観を形成する。

③ 実現方策における緑の目標

●「町民の取り組む緑化活動を行政が積極的にバックアップする」●

町民と行政が一体となって緑のまちづくりが行えるように、ワークショップの開催や基金の有効活用を図る。

④ 目標達成のために確保する緑の量

「自然地・市街地周辺の緑地を保全するとともに、都市緑化により自然地・市街地周辺から続く豊かな緑の効用を得ることができるようにする。これで都市全体で必要な緑の量を確保する」という基本的考えのもとに目標量を設定する。

ア 計画のフレーム

都市計画区域名称	計画対象市町村名
湯河原都市計画区域	湯河原町の全域 4,099ha

年次	平成 12 年	平成 17 年	平成 22 年	平成 27 年	平成 32 年	平成 37 年
人口	28,686 人	28,101 人	27,900 人	27,700 人	27,500 人	27,300 人

年次	平成 12 年	平成 17 年	平成 22 年	平成 27 年	平成 32 年	平成 37 年
市街地の人口	21,801 人	21,357 人	21,200 人	21,100 人	20,900 人	20,700 人
市街地の規模	399ha	399ha	399ha	399ha	399ha	399ha
人口密度	54.6 人/ha	53.5 人/ha	53.1 人/ha	52.9 人/ha	52.4 人/ha	51.9 人/ha

※人口は住民基本台帳の 4 月 1 日現在の数値を利用し、市街地の人口は平成 12 年国勢調査の構成比により算出した。

イ 緑の確保目標量

平成 37 年 (目標年次) における緑地 確保目標量	市街地面積 に対する割合 (A)	都市計画区域面積 に対する割合 (B)
	概ね 50.98ha 12.8%	概ね 3,485.23ha 85.0%

年次		平成 12 年	平成 17 年	平成 22 年	平成 27 年	平成 32 年	平成 37 年 (目標年次)
		(現況)					
都市計画 区域内人口 一人当たり の目標水準	都市 公園	7.14 ㎡/人	9.06 ㎡/人	9.55 ㎡/人	9.72 ㎡/人	10.33 ㎡/人	10.41 ㎡/人
	都市 公園 等	20.29 ㎡/人	22.49 ㎡/人	23.06 ㎡/人	23.33 ㎡/人	24.04 ㎡/人	24.22 ㎡/人

※都市公園等は、都市公園に児童遊園地、ふれあい広場、開発・提供公園、自然地における緑の拠点、広域避難所となっている小中学校の校庭の面積を加えたもの